

# 退院・退所前後の切れ目のないリハビリテーションの実施に向けた関わり方

退院後にデイケア・訪問リハを利用しないケースについて、各々が以下のような関わりをすることで、切れ目のないリハビリテーションの実現を目指します。

時期	介護支援専門員 (ケアマネジャー)	医療機関リハ専門職 (PT・OT・ST)	デイサービス等
退院後に利用するサービスが決まった後	<ul style="list-style-type: none"> <li>□ 本人・家族の意向を踏まえ、ニーズ(課題)を改めてリハ専門職と確認する。</li> <li>□ 利用者の担当リハ専門職に連絡し、運動プログラムの作成を依頼する。</li> <li>□ 運動プログラムの受け取り方法を確認する。</li> <li>□ 可能であればリハビリテーション科を訪れ、運動プログラムの指導を受ける。 *利用者や家族と一緒に望ましいか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>□ ケアマネジャーから在宅で想定される課題を聞く。</li> <li>□ 運動プログラムの指導を行う。 内容 ①目的(どのような活動を行うために必要なのか) ②各運動の効果(どこに効いているのか) ③回数や時間 ④実施を見合わせる目安 ⑤想定されるリスク など</li> <li>□ 運動プログラムの受け渡し方法を確認する。</li> <li>□ 必要に応じてリハビリの内容を見直す。</li> <li>□ ケアマネジャーが訪問する場合の日程調整を行う。</li> <li>□ 退院後も必要に応じて相談が可能な旨を伝える。</li> <li>□ 退院後、デイケアや訪問リハサービスの利用を検討する必要がある状態(目安)を伝える。</li> </ul>	
退院後	<ul style="list-style-type: none"> <li>□ 利用者の状態に変化があった場合や、聞きたいことがあれば地域連携室に連絡する。 <u>退院後10日程度まで</u> 情報の精度が高い。 <u>それ以降</u> 退院時点と状態が変わっている可能性があるため、必要な情報が得られないかもしれないことに留意する。</li> <li>□ デイケアや訪問リハサービス等を検討する必要がある状態になっていれば、再受診やかかりつけ医等に相談の上で、リハサービスの利用を検討する。 *必要に応じて但馬長寿の郷による訪問を検討する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>□ ケアマネジャーから連絡があった場合、必要な情報を提供する。</li> <li>□ デイケアや訪問リハサービスの利用を検討する必要があると考えた場合は、入院時の主治医に相談の上、リハサービスを利用を促す。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>□ 運動プログラムの有無を担当ケアマネジャーに確認する。</li> <li>□ 不明な点などがあれば、ケアマネジャーを介してリハ専門職に確認する。 *直接リハ専門職に連絡する方が良いか。ケアマネジャーと相談する。</li> </ul>